

東久留米市立中央中学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	・漢字力、語彙力の個人差が大きい。そのため、書く文章の内容にも個人差が出る。	・語彙力は、辞書をこまめに引くことや読書を通し活用できる言葉の力を身に付けさせる。漢字は自分なりの得点目標をもって取り組めるようにする。	○漢字は毎週小テストを実施し、習熟度を把握する。半数が8割以上、苦手な生徒も5割以上を目指す。読書、辞書を引く時間を設け、習慣付ける。
	・積極的に考え、発言しようとする生徒が多い。多くの生徒が目的やテーマに沿った話ができるようにする。	・スピーチや討論など様々な場を設定し、話すことに取り組み、その場にふさわしい話を適切な音量と速さでできるようにする。	●互いに話(スピーチ、討論等)を聞き、助言や評価をし合う。内容や構成、話す時間や声の大きさ、全員がそれぞれB評価以上を目指す。
社会	・位置や分布、自然環境との関わりについての見方・考え方に関して苦手意識のある生徒が多い。	・ワークシートを工夫し、それぞれの地域の特徴や分布に関して、色塗り作業や調べ作業を継続して行っていく。	○社会的な見方・考え方を活用し文章で記述する。單元ごとのワークシートにて習得状況を確認する。(位置や分布などの視点を用い、文章に表現できていれ)全員がBを目指す。
	・資料を読み取る問題に、苦手意識のある生徒が多い。	・ワークシートを工夫し、資料を読み取り答えを導き出す問題に多く触れる。教科書や資料集に掲載されている資料をスクリーンに提示し、理解を深める。	○小テスト(定期的に実施)にて習得状況を確認する。(8割以上でA、5割でBとする)全員がBを目指す。
数学	・小学校の基礎的な計算や四則計算の符号に混乱している生徒が多く見られる。	・小テストを取り組ませる。	○小テストを行い、5割とれる生徒を8割以上にする。
	・ワークの実施では、ほぼ全員の生徒が提出するが、答えを写して提出する生徒が見られる。	・ワークの進み具合を確認し、必ず途中の式を書くように促す。	◎ワークチェックでおおむね満足できるB評価の生徒を8割以上にする。
理科	・よく話を聞き、指示されたことについては素直に取り組む生徒が多いが、もっている知識から推測して考える力がやや足りない。	・なるべく図や写真などを提示して、具体的なイメージをもって考えられるようにしていく。	○定期テストで5割以上の生徒が5割以上の正答率を達成する。
音楽	・発言が多く、前向きに音楽活動に取り組む生徒が多い。基礎的な読譜力をはじめとして音楽知識を身に付けさせたい。	・授業の導入で音楽記号ゲーム、楽譜読み取りマスターを行い、基礎的な知識を継続的に得られる学習時間を設定する。	○音楽記号等ミニテストを行い、同じ形式で定期考査に出題する。該当箇所の問題正答率が8割以上を目指す。
	・鑑賞教材の特徴やよさを自分の言葉で表現(記述)する力をより培い、自身の考えを発表できるようにしていきたい。	・楽曲の特徴をICT機器を活用し分かりやすく示し、生徒自身が感じたこと、楽曲の魅力について言葉で表現する場を多く設定する。また、良い表現については教師から適宜、生徒側に提示・共有する。	○ワークシートの記述課題で、7割以上の生徒がおおむね満足できるB評価以上を達成する。
美術	・積極的に授業、制作に取り組む生徒が多い。制作に見通しをもたせ、技術の向上に努めた	・参考作品の提案を行うことと、簡単な練習課題を設ける。	◎振り返りの中で自分自身の課題を見付け、改善策を書ける生徒を6割以上にする。
保健体育	・意欲的に取り組む生徒が多く、授業に前向きに取り組んでいる。	・新体力テストの結果を踏まえて、新たにトレーニング等を考えていく。	○毎時間学習カードで振り返りを行い、8割以上の生徒が自ら課題解決をできる力を付ける。
	・体幹トレーニング等を取り入れ、いろいろな競技に生かしていきたい。	・一つ一つの競技の特性をより踏まえ、練習方法等を工夫していく。	○競技ごとに評価テストの種類を増やし、多面的な角度から評価を行い、8割以上の生徒が目標を達成できるようにする。

技術	・作業工程や作業時間を意識しながら、完成までの見通しをもって作業に取り組める生徒が少ない。	・作業全体の流れを提示し、計画的に作業に取り組めるようにする。	◎製作活動の予定時間内に作業を終えることができる生徒の数が、9割以上になることを目指す。
家庭	・授業に対して興味をもち、取り組んでいるが、日常生活の中で必要かどう活かすのか理解できていない生徒がいる。	・日常生活において、授業で学んだことをすぐに実践できるようにロールプレイやグループワークなど行う。	○まとめたことを発表する。 ◎プリントの記述内容、振り返りカード、製作物の取り組みから確認する。(毎時間理解していると判断できる生徒が7割を目指す)
外国語	・既習の語句を使用して即興的に目的に合う英文を作ることができる生徒が少ない。	・単元ごとに、基本文を用いて題材を提示し、その場で対話を続ける活動をする。	●単元のパフォーマンステストを行い、5割以上の生徒が目的に合う英文を即興的に5文以上言える力を付けさせる。
	・英文の読解が苦手な生徒が多い。	・自主的に英文を読む活動を単元ごとに取り入れる。	○初出の英文に対する設問に5割以上の生徒が8割以上正答できることを目指す。
特別の 道徳 教科	・自分の意見をもっている(ワークシートに記述はしている)が、発表が苦手な生徒が見られる。	・自己で考えた意見を4人以下の少人数グループで意見交換させ、グループ内で個人が必ず発言する場をつくる。その後グループごとに発表するなど、より多くの生徒が全体で発表する場を設定する。	○全生徒が話し合いのルールを守り、多くの生徒がすすんで発表できるような雰囲気と環境を整える。
間学総 習合 的時 な	・教員からの指示がないと、自ら課題の設定が困難である生徒が多い。	・イメージしやすいような例を提示するなどの工夫をし、課題設定を行わせる。また説明を分かりやすく行う。	○テーマごと2回以上の課題設定を行い、教員の意図する段階に達しているかワークシートで確認する。

東久留米市立中央中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・進出漢字のほか、既習漢字についても読み・書きの学習は必要であり、日々の授業の外、年間20回の漢字テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に3回、年20回程度を目標に漢字テストを行う。範囲を定めて練習すれば、必ず満点が取れるよう配慮する。定期考査では主に間違えの多かった漢字を出題し、スモールステップで学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ミニテストでは8割以上を合格として示す。（学年便りに掲載する等、努力を称える工夫をする。） ○定期テストや休み明けテストについても必ず範囲を示し、8割以上を合格とする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことばで考え、答えたりまとめたりする学習において、答えが示されるのを待ち、自主的に考える習慣のついていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で発問機会を多く設け、生徒が発言を重ねることで、より深く多角的な考えができるようにし、その場でキーワードや解答への道筋を確認する。その上で考える時間を作り、考えや答えを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発言も回数や内容を評価する。書く課題は、設定量の8割を超えるとB評価、更に根拠に基づいた考えならA評価というように生徒に得点化して返却する。全員B評価以上を目指す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象を自分の言葉で説明することが困難な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントで視聴覚資料を例示し生徒にイメージをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テスト・単元テストで8割以上の正答率を目指す。定期テストで8割以上を合格とする。
	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に対する説明文章の例示を行い、生徒に書き方の方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で生徒が積極的に発言できるように発問を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テスト・単元テストで8割以上の正答率を目指す。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数の計算や1次方程式など既習事項が定着していないため知識が積みあがっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査3週間前には試験対策プリントを配布し生徒が学習に取り組みやすい環境を整える。また、長期休業期間や定期考査前に学習教室を開き質問できる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査で学年全員が20点をとれることを目標とする。また、学年の半分の生徒が50点を超えるように指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を化学式で表したり、化学変化を化学反応式で表したりすることに苦手意識のある生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントや小テストで復習する機会を増やし、記号や式に慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●確認テストで、7割の生徒が7割以上の正答率を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・計算して数値を求めることが苦手な生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な計算問題で練習をして、自信をもって数値を求められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テストや確認テストで、7割の生徒が5割以上の正答率を目指す。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が得意不得意はありながらも、努力しようとする生徒が多い。一方で楽譜の読み取りに課題がある生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の導入時間等で音楽記号・リズムゲーム、読譜の仕方について学ぶ時間を短時間で継続的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読譜等ミニテストを行い、定期考査で同じ形式で出題する。該当箇所の問題正答率8割以上を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞した楽曲内容を説明する力に個人差があるため、読み手（聴き手）に伝わる言葉で説明ができる力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴をICT機器を活用し分かりやすく示し、生徒自身が感じたこと、楽曲の魅力について言葉で表現する場を多く設定する。また、良い表現については教師から適宜、生徒側に提示・共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの記述課題で、7割以上の生徒がおおむね満足できるB評価以上を目指す。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や制作では集中して取り組める生徒が多い反面、発想をするのが苦手な生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもてるように鑑賞や資料集を見る機会を設ける。また、マッピングなどを使用し制作が分かりやすくできるワークシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの記述課題で、5割の生徒がA評価を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的な習得に時間がかかる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上を図るために、練習問題に取り組めるようなワークシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どの単元のワークシートにも練習問題を作成し、定期考査の実技課題では正答率を6割以上にする。

保健 体育	・運動が得意な生徒と不得意な生徒の差が激しいが素直に取り組もうとする生徒が多い。	・ポイントを明確にし、自分たちで教え合いを行うなどの活動を通して積極的に行えるようにする。	○学習カード「積極的に取り組んだ」の欄に7割以上の生徒の評価を目指す。
	・基礎体力は低い、トレーニング等を取り入れ、いろいろな競技に体力を生かしていきたい。	・毎時間基礎トレーニングを取り入れ、練習方法も工夫する。	○競技ごとに評価テストの種類を増やし、多面的な角度から評価を行い、8割以上の生徒が目標を達成できるようにする。
技術	・自ら設定した課題の解決に向けて、具体的な目標を立てて活動に取り組んだり、活動を振り返って考察を行ったりすることが難しく、文章化して表現することができる生徒が少ない。	・3段階の問題解決学習を設定し、課題解決に向けた作業の流れを理解しやすくする。さらに目標の立て方や考察の仕方について、記入例やカッコへの穴埋めを用いながら記述方法についても学習の機会を設ける。	◎振り返りの中で、課題解決の方法を論述することができる生徒を8割以上にする。
家庭	・授業に対して興味をもち、取り組んでいるが、集中して取り組めない生徒がいる。	・日常生活において、授業で学んだことをすぐに実践できるようにロールプレイやグループワークなど行う。・教科書や資料集、DVDなどを使い生徒がイメージして日々の生活と結びつけられるようにする。 ・単元ごとに振り返りプリントにまとめ、内容を定着を図る。 ・内容について調べたり、自分の意見をレポートにまとめたりする。	○繰り返し学習しながら知識の定着を図る。(8割の生徒を目指す) ◎プリントの記述内容、振り返りカード、製作物の取り組みから確認する。(毎時間)
外国語	授業後の復習をきちんと行っていない生徒が一定数いるので、復習プリントを取り組みやすくする。	何を理解し、何ができるか個人個人把握するよう復習の時間を少しとる。また説明もより詳細に行う。	○振り返りやCan DO Listで7割以上の生徒が理解し基礎項目ができるようにする。
科特別 道の徳教	・理解力が乏しい生徒が多いため発問を中心に何を考えているのかを分かりやすくするように工夫する。	・考える場面では、自分たちの現状に置き換えるような状況であるかを理解させ、現実的に考えるように発問する。	◎授業で学んだことを理想論とするのではなく、学校生活を中心に実生活に活かせるように指導する。
総合的な 学習の時間	・自分で考え、意見を発信することが苦手な生徒、集団活動において自己の力を発揮せず、友人に頼りきりになる生徒が少なからずいる。	・自己理解学習を重視し、自己分析を行う。また、生活改善・自己向上に向けての学習を取り入れる。校外学習では、実行委員を中心に生徒の考えが十分反映されるよう工夫する。	●調べ学習を行い、話す・書くの発表活動を行う。相互評価を通して、互いを認め合える場をつくる。A, B, Cの3段階評価で相互評価し、B評価以上が7割を目指す。
	・教員からの指示がなくても、自ら課題を設定し、行動できるようになることや、生徒間のコミュニケーションを図る学習を取り入れる必要がある。	・多様な職種に就いている方からの講話を計画し、自分の目標を意識させる。職業学習を通じて進路選択につながる学習を設定する。	○行事のまとめとして発表を行う(2回)。各自、各班の発表する内容の変化を評価・検証する。

東久留米市立中央中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 思考・判断・表現の学習において、自分の意見や答えをまとめる・述べるすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートと立罫線を活用して、答えやすいような枠を用意する。話し合い学習を重視し、自分以外の意見を聞けるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎書き方について時間をかけて検証する。条件（字数とキーワード等）をクリアできた文章はB評価とする。A評価との違いを明らかにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 書く学習について、ある一定の字数で書けるようになったが、質の向上を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用しながら、よりよい発問を用意する。具体的な表現ができるように、抽象と具象について複数の場面で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○抽象と具象を理解し、キーワードを適切に選んで表現できているものはB評価とする。よりよい文章はA評価となるので、違いを明らかにしたり、比べ読みをしたりしてより良い文章作成を目指す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な資料から全時代との比較・類推することに苦手意識のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をプレゼンテーションソフトを用い、効果的に提示し、前時代との比較や今後の影響について繰り返し発問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業で取り上げた資料を考査や単元ごとの小テストにて並び替え問題を用い習得状況を確認する。（8割以上でA、5割でBとする）全員がBを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る問題に、苦手意識のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを工夫し、資料を読み取り答えを導き出す問題に多く触れさせる。教科書や資料集に掲載されている資料をスクリーンに提示し、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テスト（定期的実施）にて習得状況を確認する。（8割以上でA、5割でBとする）全員がBを目指す。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算のやり方を習得していない生徒が見られる。理解の程度の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算テストや復習問題を実施することで、反復練習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月に1回程度計算テストを実施することで定着を図る。全員が8割以上の正答を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の意図する内容を読み取り、式にすることが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中式や途中の考え方を大事にさせ、どこで間違えたのか把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期考査で途中式や途中の考え方を書かせ、理解の状況を検証する。式を作る段階ができる生徒が7割以上になることを目指す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 計算や論述などの思考力を伴う問題に、苦手意識のある生徒が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各小単元（章）の終わりに学習ドリルを用いて演習問題に多く取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業内での章末テストで、8割以上の生徒が6割以上の点数を取れることを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事象を既習事項や自然体験学習から、結果を予測させ、興味をもたせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察の結果をまとめ、表現することで、自然の事物、現象を科学的に理解する思考力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎レポート課題で7割以上の生徒がおおむね満足できるB評価以上を目指す。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身のできることや力を伸ばそうと努力する生徒が多い。一方で、音程の読み取り、読譜力に課題がある生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の特徴と読譜の仕方について学ぶ時間を短時間で継続的に設定する。積極的に楽譜に書き込みをする時間・場面と表現する場を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱学習では、歌唱の工夫ポイントを考えさせて提出用の楽譜に記入する。7割以上の生徒の記述内容が概ね満足できるB評価以上の取得を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞した楽曲内容を説明する力に個人差があるため、読み手（聴き手）に伝わる言葉で説明ができる力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の特徴をICT機器を活用し分かりやすく示し、生徒自身が感じたこと、楽曲の魅力について言葉で表現する場を多く設定する。また、良い表現については教師から適宜、生徒側に提示・共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの記述課題で、7割以上の生徒が概ね満足できるB評価以上を目指す。

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では集中して取り組める生徒が多い。発想や構想が苦手な生徒が見受けられる。 ・技術的な習得に時間がかかる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を鑑賞させ、制作のポイントを板書し、自分の制作と照らし合わせるようにする。 ・技術の向上を図るために、練習問題に取り組めるようなワークシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りで、自分自身の課題を見付け、改善策を記入できる生徒を7割以上にする。 ○どの単元のワークシートにも練習問題を作成し、定期考査の実技課題では正答率を6割以上にする。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む生徒もいるが、なかなか記録は伸びていない。 ・基礎体力が低いトレーニング等を取り入れ、いろいろな競技に生かしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技の特性や練習ポイントを明確に伝え、多く練習できるように時間を取る。 ・毎時間基礎トレーニングを取り入れ、練習方法も工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間学習カードで振り返りを行い、8割以上の生徒が自ら課題解決できる力を付ける。 ○各競技ごとに評価テストの種類を増やし、多面的な角度から評価を行い、8割以上の生徒が目標を達成できるようにする。
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の操作には慣れている生徒が多いが、キーボードの操作やデータファイルの管理に対する理解が低い。 SNSやインターネットの危険性についての理解度が低い生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードを活用してプログラム言語を入力し、ファイルを保存させながら理解を図る。 ・SNSやインターネットの問題点について、具体的な例を用いて学習する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○初歩的なプログラムを入力し、保存することができる生徒の割合を9割以上にする。 ◎具体例や実践的に学ぶ事ができる授業を、年3回以上設定する。(各学期、1回以上行う)
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に意欲的でない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、DVDなどを使い生徒がイメージして日々の生活と結び付けられるようにする。 ・内容について調べたり、自分の意見をレポートにまとめたり、友だちに伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎発展的な学習に意欲的な生徒を6割以上にする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の復習(家庭学習)をすることができていない生徒が3割程度いる。 ・長文読解を苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出文法事項、本文内容等の前時の復習を行う。 ・帯活動で長文読解の時間をとる。 ・教科書のUseReadを活用して、読解力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎授業初めに復習を行い、9割以上の生徒がヒントを参考にしながらも答えることができることを目標とする。 ●総整理問題集の長文テストを定期的に行い、8割以上の生徒が6割達成を目指す。 ●UseReadの授業で、長文のどの部分に答えが書いてあるか分かる生徒が8割以上いることを目指す。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議では意見を伝えることができる生徒と、苦手な生徒が二分化されている。 ・自分の意見を文章化するのが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを2人などの最小単位に分けて、自分の意見を発表しやすくする。 ・発問に対して意見を例示し、自分の意見を文章化しやすくする環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割以上の生徒が話し合いのルールを守り、活発な意見交換ができるようにする。 ●8割以上の生徒が自分の意見を文章化することができるようにする。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行を活用して調べ学習・話し合い学習などに取り組んでいる。 ・進路学習の一環として面接コンテストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統・文化等の学習に取り組む学習は順調である。3年間の集大成として学習に取り組ませる。 ・話し合い活動などで、協働的な活動が難しい場面が見られる。 ・十分な広さのある面接会場を準備し、必要に応じてシールドを立てて面接練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎伝統文化に関する学習については、発表会を行い、よりよい書き方・発表方法を学ばせる。 ○協調性をもって、多人数で意見を一つに集約する学習は困難が伴う場合もあるが、教員が援助しながら最終的にはアンケート・作文で評価し、多くの場面で高評価になるよう導く努力をする。 ○毎回の面接実施時に、感染症対策の点検を行う。